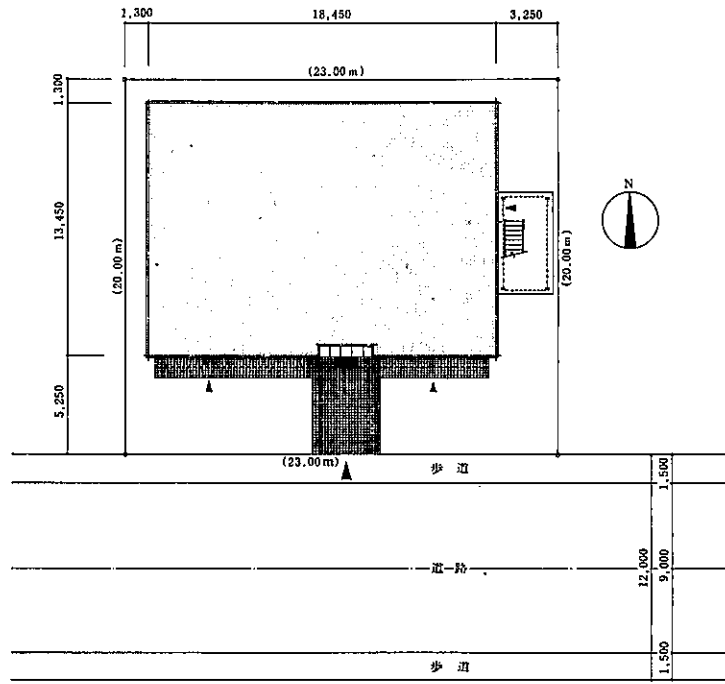


建物概要

工事名称：SKビル新築工事
 建物用途：主用途 事務所 従用途 店舗
 建設地：東京都〇〇区××町
 工事種別：新築
 用途地域の指定：商業地域
 防火地域の指定：防火地域

構造・規模：鉄筋コンクリート造地上5階建
 地 業：アースドリル工法
 最高高さ：18.400m
 最高軒高：17.900m
 建物面積：建築面積—268.95㎡ 延床面積—1,101.80㎡
 敷地面積：460.00㎡

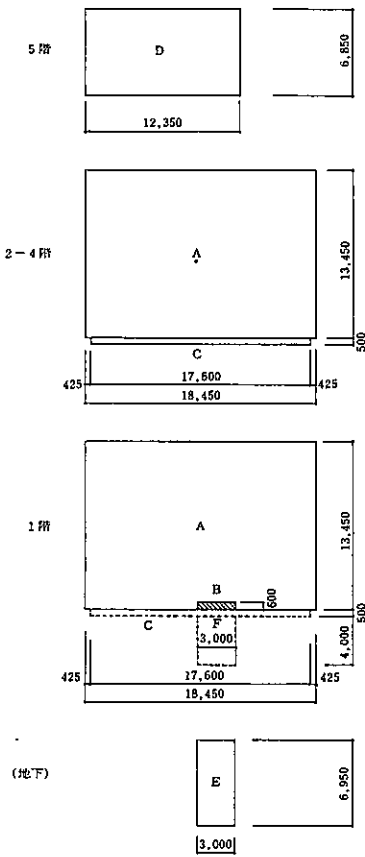


配置図 1/400

面積表

	計算式	合計
1階床面積	A-B	246.35 m ²
2階	A+C	256.95 m ²
3階	A+C	256.95 m ²
4階	A+C	256.95 m ²
5階	D	84.60 m ²
延床面積	(A-B)+(A+C)×3+D	1,101.80 m ²
建築面積	A+C+F	268.95 m ²
敷地面積		460.00 m ²
地下面積	E	20.85 m ²

求積図 1/600



A : 18,450 × 13,450 = 248.15
 B : 3,000 × 0.600 = 1.80
 C : 17,600 × 0.500 = 8.80
 D : 12,350 × 6,850 = 84.60
 E : 3,000 × 6,950 = 20.85
 F : 3,000 × 4,000 = 12.00

外部仕上表

- 屋上 : RCスラブにて仕上(勾配1/100)の上アスファルト防水 保護モルタル厚20mm鉄筋コンクリート厚60mm押入防水モルタル金ゴテ目地切仕上(目地φ1,500以下)。排水溝—ラテックス入り防水モルタル金ゴテ幅150%伸縮目地—アスファルトコンパウンド幅25% φ3,000以下
- 同上バラベツト : 笠木—ラテックス入り防水モルタル金ゴテ目地切(目地：コーキング10×10φ1,500内外)立上り—均しモルタル厚15アスファルト防水立上げ、立上り押入—モルタルレンガ積の上防水モルタル金ゴテ
- 塔屋屋根 : RCスラブ(勾配1/100)の上均しモルタル厚20mm露出シート防水(立上りとも)、笠木—アルミ既製品(電解発色)
- パイプシャフト立上り : 屋根—防水モルタル金ゴテ、壁—モルタル金ゴテ吹付タイル、防水立上り部分は屋上バラベツトと同じ。
- 手摺 : 手摺—G.Pφ42.7 O.P 手摺子—丸鋼φ13φ120 O.P, 手摺子受接—G.Pφ21.7 O.P, 支柱—G.Pφ27.2 O.P 基礎—軽コン 300×600 (控用), 300×300
- 丸 鋼 : ステンレス製 φ3,000内外
- クラツプ : 丸鋼φ22 O.P幅400 φ400
- 外部階段 : 柱・梁—鉄骨O.P 1階床—土間コンクリートにて押入、踏面・蹴上—磨石・踏床—チェッカープレート厚4.5 O.P 手摺—屋上同様にて取する。
- 外 壁 : 2階—1階部分御影石張厚20mm(眼目地) 両袖およびバラベツト立上り部分 磁器小口平タイル張 2—4階部分、アルミカーテンウォール(電解発色) 塔屋—モルタル金ゴテ吹付タイル 東面・西面—モルタル金ゴテ吹付タイル、南側袖部分—磁器小口平タイル張 北面—モルタル金ゴテ吹付タイル
- 外壁目地 : 打継目地15×15コーキング
- 庇 : 天端—防水モルタル金ゴテ 庇先・庇裏—RC打放しの上吹付タイル
- 玄関ポーチ : 床—大磯石張厚25 粗面(目地幅5%)、壁—御影石張厚20mm(眼目地) 天井—アルミ成型板張(軽鉄下地)、回り縁—アルミ型材(ともに電解発色)、天井点検口—アルミ枠製450角
- 玄関庇 : 床—磁器タイル張(100角) 段差役物、浴ふきマット—ステンレス製(枠とも) 1,200×600 内部モルタル金ゴテ 天井—玄関ポーチと同じ、柱・梁(破風)—鉄骨O.P 屋根—デッキプレート(勾配1/100)の上ラテックス入りモルタル金ゴテ露出シート防水、端部押入FB30×3 O.P 笠木—アルミ(焼付塗装)厚2.0加工 幅150
- 犬 走 り : 磁器タイル張(100角) 段差役物使用
- 外部開口部 : アルミ建具・スチール建具・ステンレス建具・ステンレスシャッター・アルミカーテンウォール
- ルーフドレイン : 塔屋屋根—銅鉄製シート防水用傾斜型φ100用、屋上—銅鉄製アスファルト防水用傾斜型φ100用 通路屋根—同上シート防水用クテ型φ80用
- ビル名文字 : ステンレス切文字 文字寸法200×200×厚4.5×4文字(SKビル)
- 招牌金物 : ステンレス製1組
- クテ 樋 : 硬質塩ビ管V.Pφ100, φ80 ツカミ金物—FB20×3 O.Pφ1,200以内

特記事項

- 木材仕様 : 4階和室回り—造作材(柱も含む)杉無節、ただし数箇所は松無節、大引き・根太—檜—等防虫処理材 4階会議室、応接室、役員室、ロビーの枠組は、銘木種付C.Lとする。その他の枠組はスプルースO.Pとする。
- 銘木種付の仕様 : 壁・巾木、内部家具類および建具・建具枠組の銘木種付・銘木集成材は特記なき限りウォールナットC.Lとする。
- コーキング : 外部開口部回り四角(水切皿板がある場合はその部分も含む)はポリサルファイド系コーキングとする(10×10)。その他の部分のコーキングも特記なき限りポリサルファイド系コーキングとする(10×10)。
- ステンレス仕様 : 特記なき限りSUS304とL.H.L(ヘアライン)仕上とする。
- 断熱材 : 屋根スラブ下にスタイロフォーム厚50打込みとする(ただし換気室天井部分のみ木毛板厚18打込)。
- 石張仕様 : 床部分を除き乾式工法とする。
- 1階土間の防湿 : 1階玄関ホール、店舗A・B、廊下、湯沸室、便所部分の床スラブ下に防湿シート(ポリエチレンフィルム厚0.2%)敷込
- 鉄部防錆仕様 : 内外部の構造物以外の鉄部は特記なき限り亜鉛メッキ処理とする。

1. 使用材料

(1) コンクリート		
枕	普通コンクリート	FC=180(kg/cm ³)
躯体	"	FC=210(")
	スランブ	18cm
(2) 鉄筋	D16以下	SD295A
	D19以上	SD345
継手	D19以上	圧接継手
	D16以下	重ね継手
(3) 鉄骨	SS400	
(4) H T B	F10T	M20

2. 鉄筋に対するコンクリートの かぶり厚きの最小値

部	位	かぶり厚き (mm)	
		屋外	屋内
土に接しない部分	屋根スラブ・床スラブ	屋外	30
	非耐力壁	屋外	40 ¹⁾
	柱・はり	屋内	40
土に接する部分	耐力壁	屋外	50 ²⁾
	壁	屋外	50 ²⁾
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	屋外	50
基礎・橋	基礎・橋	70	

[注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、係員の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、係員の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、係員の承認を受けて40mmとすることができる。

3. 鉄筋の相互間隔

a: 下記のすべてを満足する値

- a ≧ 1.7d
- a ≧ 最大粗骨材径の1.25倍
- a ≧ 25

(注) dは公称直径

4. 鉄筋の曲げ基準

4-1 鉄筋末端部の折曲げ形状・寸法

折曲げ 角度	図	種類	折曲げ内のり直径(D)
180°		SR235	3d以上 ¹⁾
		SR295	
		SD295A	径10~, D16以下3d以上
		SD295B	D19~D38 4d以上
135°		SD345	4d以上
		SD390	5d以上

[注] (1) dは、丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値とする。
(2) 折曲げ角度90°は、スラブ筋・壁筋末端部またはスラブと同時に打ち込む丁形およびL形はりに用いるU字形あばら筋とともに用いるタイのみに用いる。
(3) 片持スラブの上端筋の先端、壁の自由端に用いる先端は、余長は4d以上でよい。

4-2 鉄筋中間部の折曲げ形状・寸法

折曲げ 角度	図	鉄筋の種類	鉄筋の径に よる長さ	鉄筋の折り曲げ 内のり直径(D)
90°以下		SR235	16φ以下	3d以上
		SR295	D16以下	
		SD295A	19φ以上	
		SD295B	D19以上	
		SD345	25φ以上	4d以上
		SD390	D29~D38	4d以上

[注] (1) dは丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値とする。

4-3 フックの使用部分

(1) フープ、スターラップ—135°フック
(2) 柱および梁（芯線を除く）の出隅部分の重ね継手—180°フック
(3) 単純梁の支持部下端筋—180°フック

5. 鉄筋の継手基準

5-1 重ね継手

または

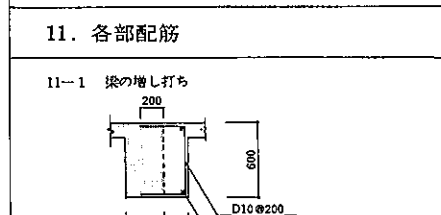
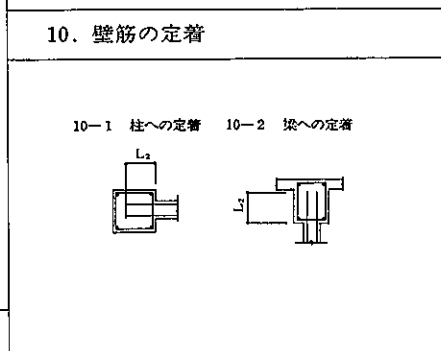
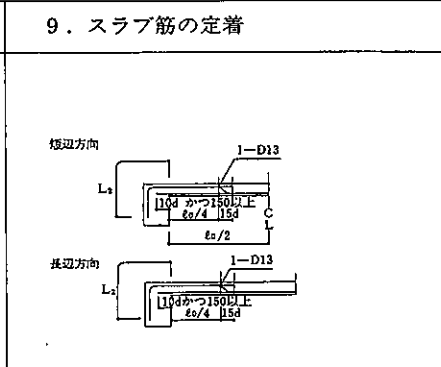
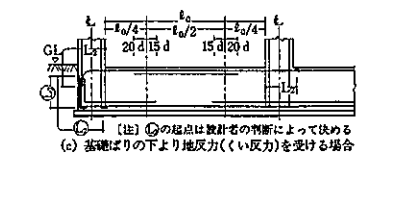
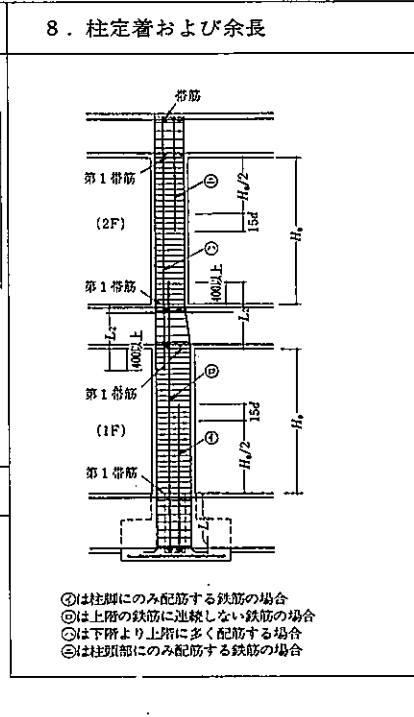
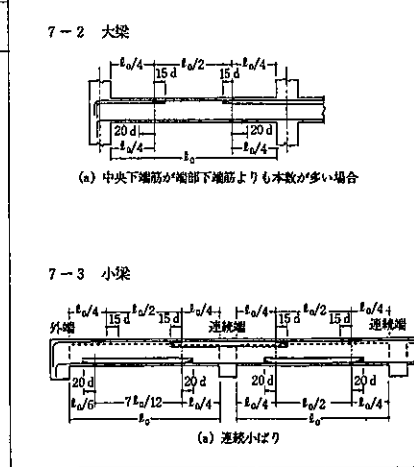
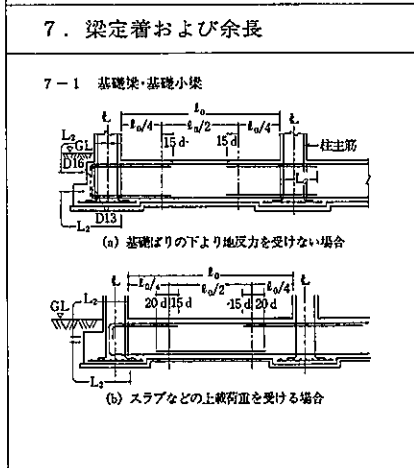
継手の長さはJASS 5による。

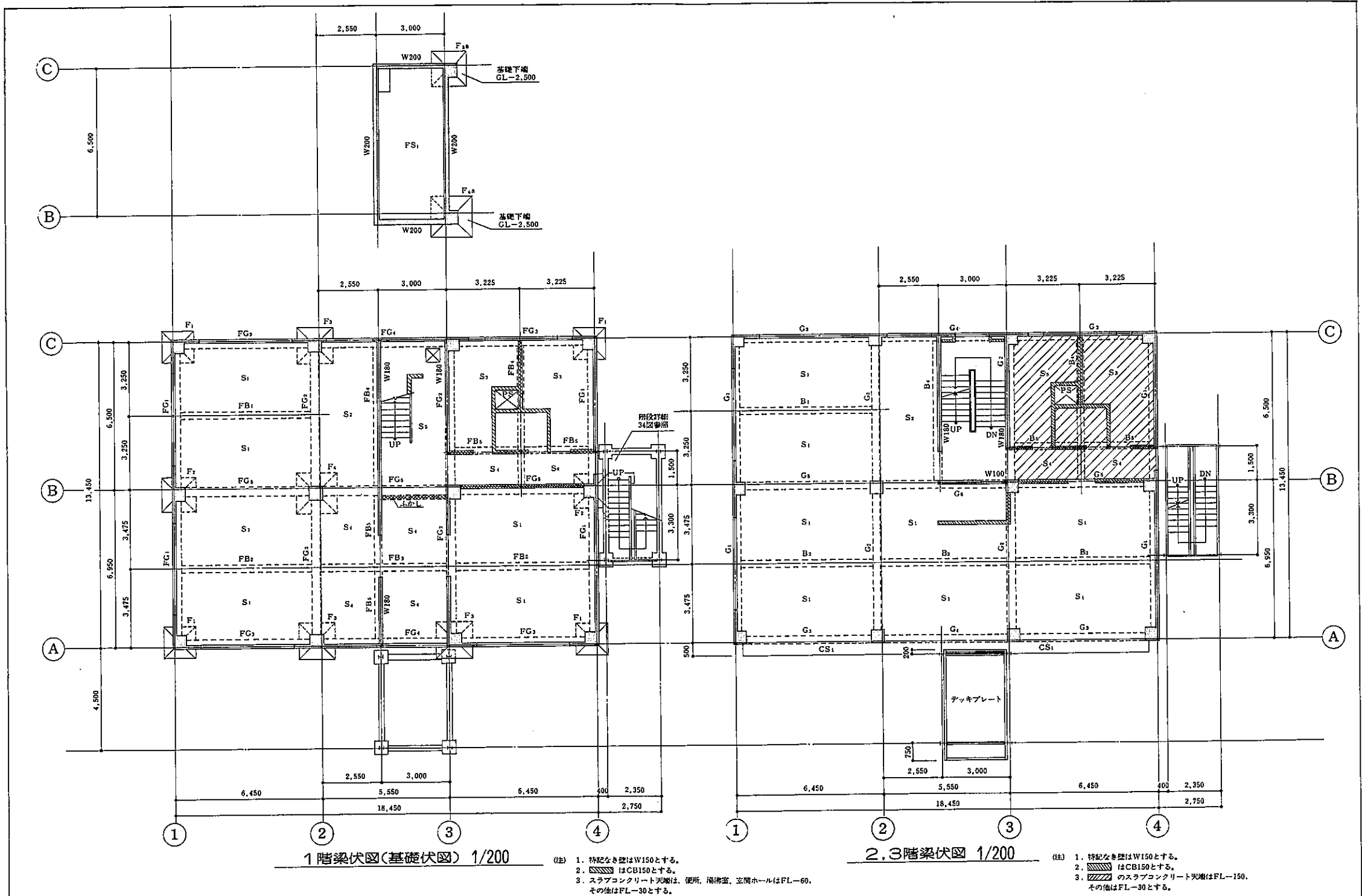
5-2 ガス圧接

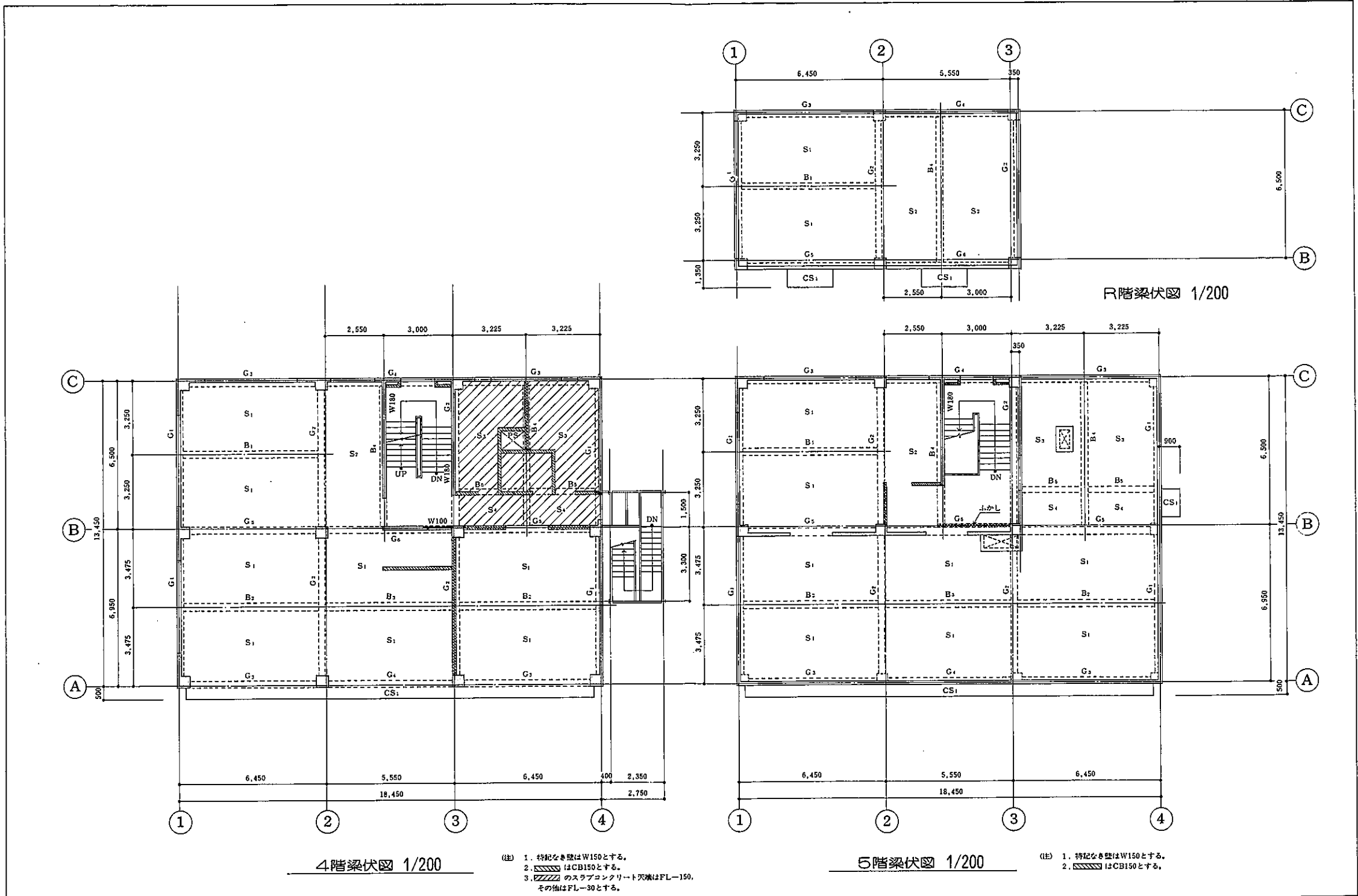
6. 鉄筋の定着長さL

鉄筋の 種類	コンクリ ートの設 計基礎強 度の範囲 (kg/cm ²)	定着長さ		
		一般 (L _s)	小梁	床・埋込スラブ
SD295A	180	40dまたは 30dフック付き	25dまたは 15dフック付き	10dかつ 150mm以上
SD345	210	35dまたは 25dフック付き		

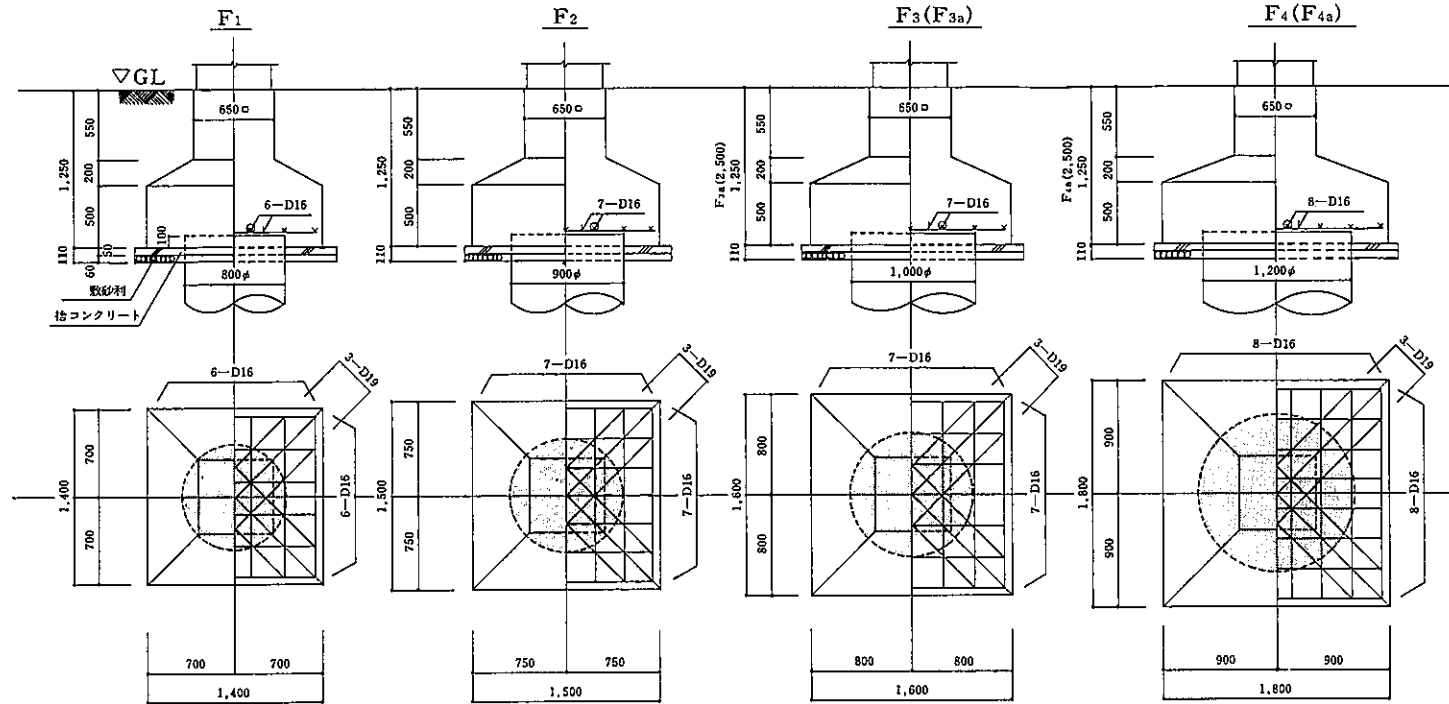
(1) 末端のフックは定着長さに含まない。
(2) dは呼び名に用いた数値とする。
(3) 梁およびスラブ筋の定着のための中間折曲げにあっては、表中の定着長さLにかかわらず、柱および梁の中心を越えてから折曲げる。
(4) 板筋の余長は30mm 継手は15dとする。



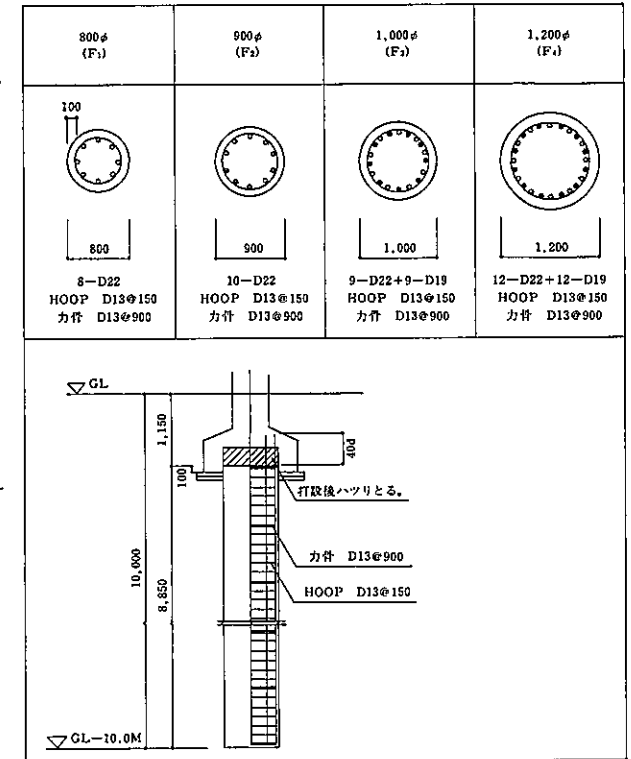




基礎断面表 1/60

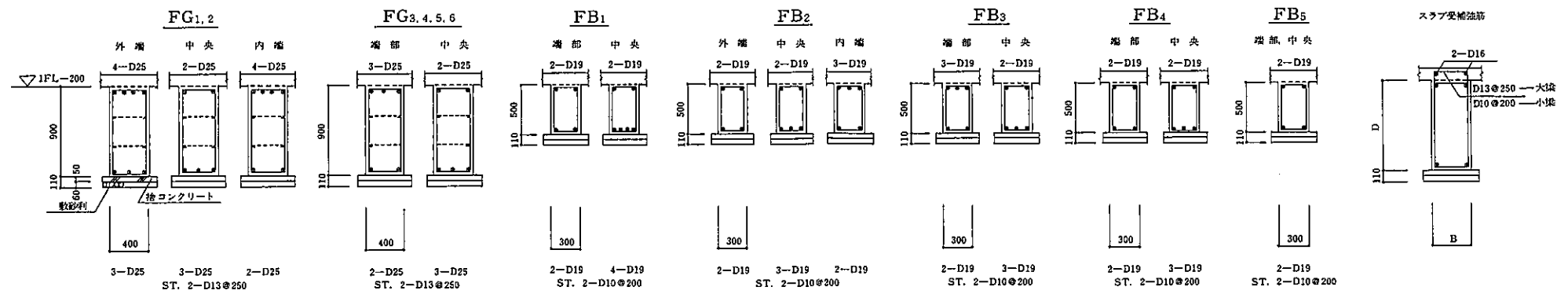


アースドリル杭 1/100



基礎梁断面表 1/60

(注) 縦筋は4-D13, 中止め筋はD10@750とする。

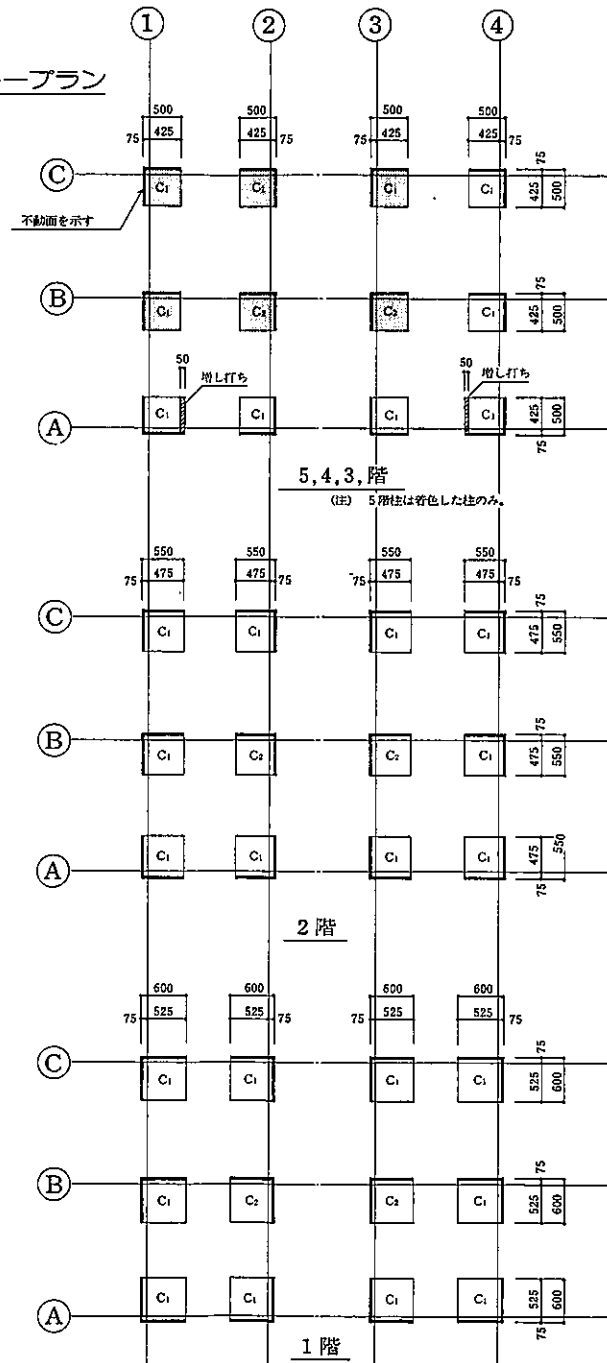


柱断面表 1/60

(注) HOOPはD10@100, TIE. HOOPはD10@600とする。

	C1	C2
5階		
4階		
3階		
2階		
1階		

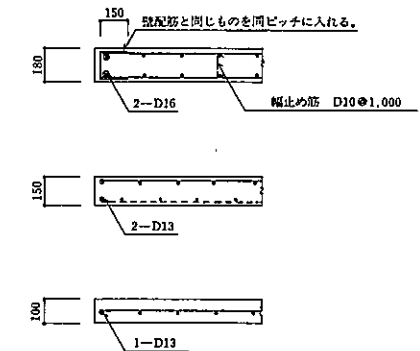
柱キープラン



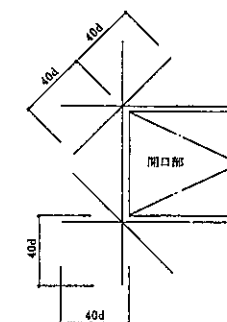
壁断面表

	壁厚	配筋	開口部補強筋		備考
			クテ・ヨコ筋	斜筋	
内壁	W100	クテ筋 D10@200(シングル)	1-D13	1-D13	
		ヨコ筋 D10@200(シングル)			
"	W180	クテ筋 D10@200(ダブル)	2-D16	2-D16	
		ヨコ筋 D10@200(ダブル)			
外壁	W150	クテ筋 D10@200(チドリ)	2-D13	2-D13	[200]
		ヨコ筋 D10@200(チドリ)			
ブロック	CB150	クテ筋 D10@400			
		ヨコ筋 D10@400			
"	CB100	クテ筋 D10@400			
		ヨコ筋 D10@400			

壁端部補強

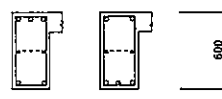
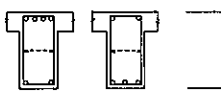
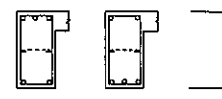
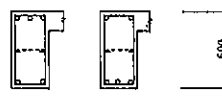
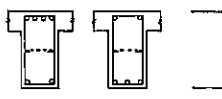
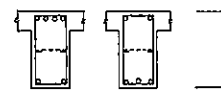
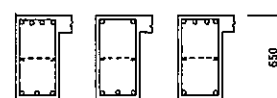
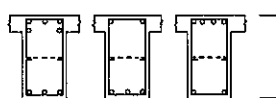
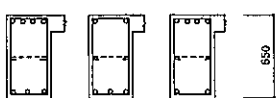
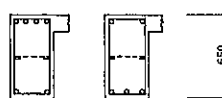
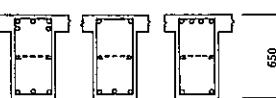
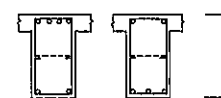


開口部補強

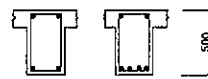


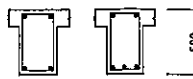



大梁断面表 1/60

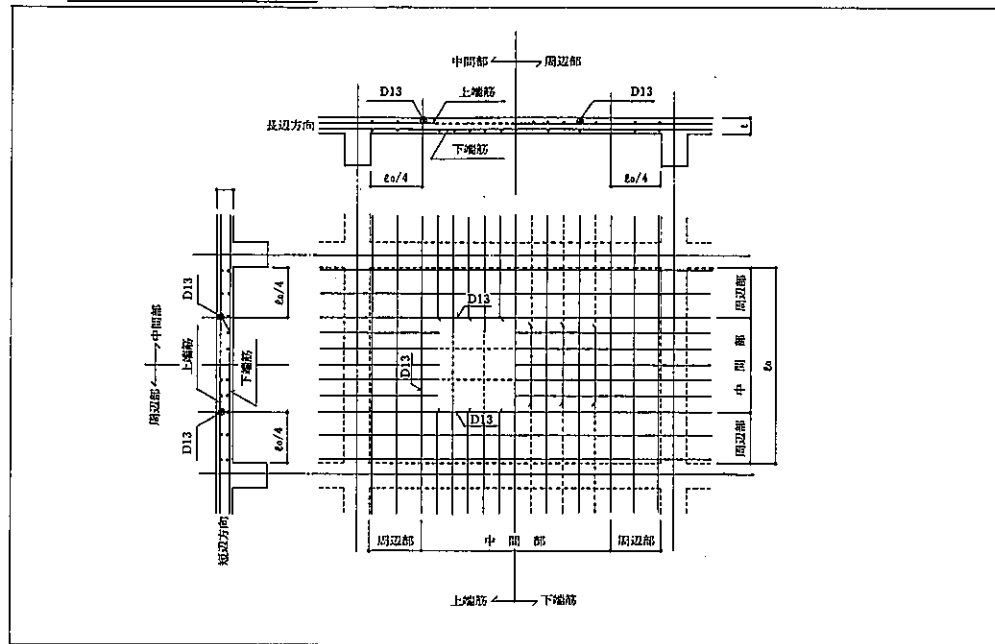
(注) 縦筋は2-D10、幅止め筋はD10@600とする。

	G ₁	G ₂	G ₃	G ₄	G ₅	G ₆
R・5・4階	<p>端部 中央</p> <p>3-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>4-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>3-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>3-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>4-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>4-D22 2-D22</p>  <p>300</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@200</p>
3・2階	<p>外端 中央 内端</p> <p>4-D22 2-D22 4-D22</p>  <p>350</p> <p>3-D22 3-D22 2-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>	<p>外端 中央 内端</p> <p>5-D22 2-D22 4-D22</p>  <p>350</p> <p>3-D22 3-D22 2-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>	<p>外端 中央 内端</p> <p>4-D22 2-D22 4-D22</p>  <p>350</p> <p>3-D22 3-D22 2-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>	<p>端部 中央</p> <p>4-D22 2-D22</p>  <p>350</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>	<p>外端 中央 内端</p> <p>5-D22 2-D22 4-D22</p>  <p>350</p> <p>3-D22 3-D22 2-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>	<p>端部 中央</p> <p>4-D22 2-D22</p>  <p>350</p> <p>2-D22 3-D22</p> <p>ST. 2-D10@150</p>

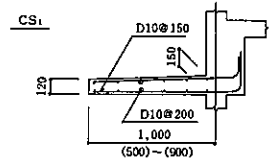
小梁断面表 1/60

B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	B ₅
<p>端部 中央</p> <p>2-D19 2-D19</p>  <p>300</p> <p>2-D19 4-D19</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>外端 中央 内端</p> <p>2-D19 2-D19 3-D19</p>  <p>300</p> <p>2-D19 3-D19 2-D19</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>3-D19 2-D19</p>  <p>300</p> <p>2-D19 3-D19</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>2-D19 2-D19</p>  <p>300</p> <p>2-D19 3-D19</p> <p>ST. 2-D10@200</p>	<p>端部 中央</p> <p>2-D19</p>  <p>300</p> <p>2-D19</p> <p>ST. 2-D10@200</p>

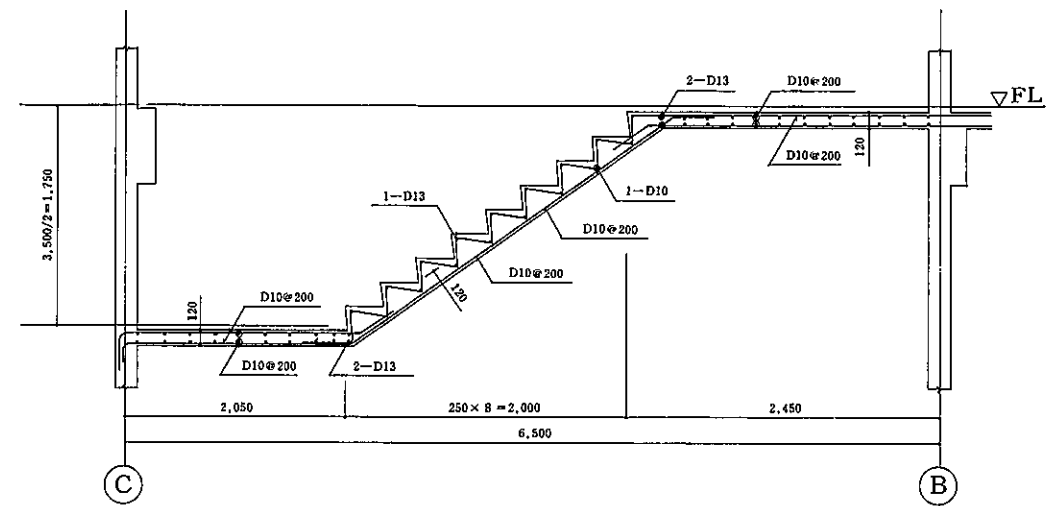
スラブ断面表 1/60



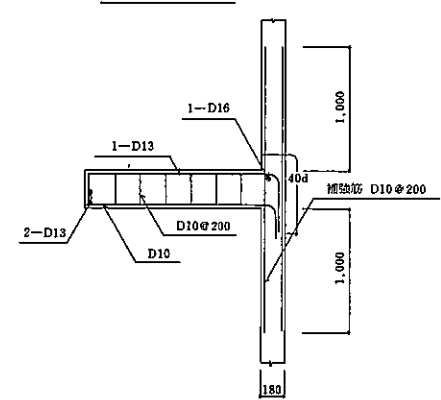
符号	厚さ (t)	位置	短辺方向			長辺方向			備考
			中間部		周辺部	中間部		周辺部	
			端部	中央部		端部	中央部		
RS ₁	120	上端筋	D10 + D13@200	D10@400	D10@250	D10@250	D10@500	D10@250	
		下端筋	D10@400	D10 + D13@200	D10@250	D10@500	D10@250	D10@250	
RS ₂	120	上端筋	D10 + D13@200	D10@400	D10@200	D10@200	D10@400	D10@200	
		下端筋	D10@400	D10 + D13@200	D10@200	D10@400	D10@200	D10@200	
SS ₁	120	上端筋	D10 + D13@200	D10@400	D10@250	D10@250	D10@500	D10@250	
		下端筋	D10@400	D10 + D13@200	D10@250	D10@500	D10@250	D10@250	
4~1S ₁	120	上端筋	D10 + D13@200	—	D10@200	D10@250	—	D10@250	
		下端筋	D10@400	D10 + D13@200	D10@200	D10@500	D10@250	D10@250	
5~1S ₂	120	上端筋	D10 + D13@200	—	D10@200	D10@200	—	D10@200	
		下端筋	D10@400	D10 + D13@200	D10@200	D10@400	D10@200	D10@200	
5~1S ₃	120	上端筋	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10@250	D10@250	D10@250	
		下端筋	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10@250	D10@250	D10@250	
5~1S ₄	120	上端筋	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10@250	D10@250	D10@250	
		下端筋	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10 + D13@200	D10@250	D10@250	D10@250	
FS ₁	200	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	



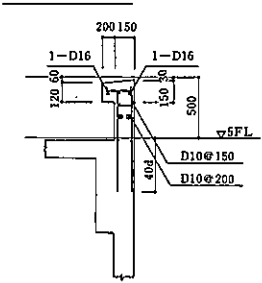
階段 1/60



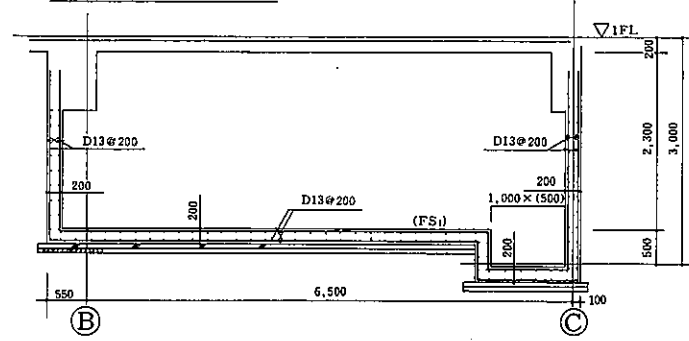
階段補強筋



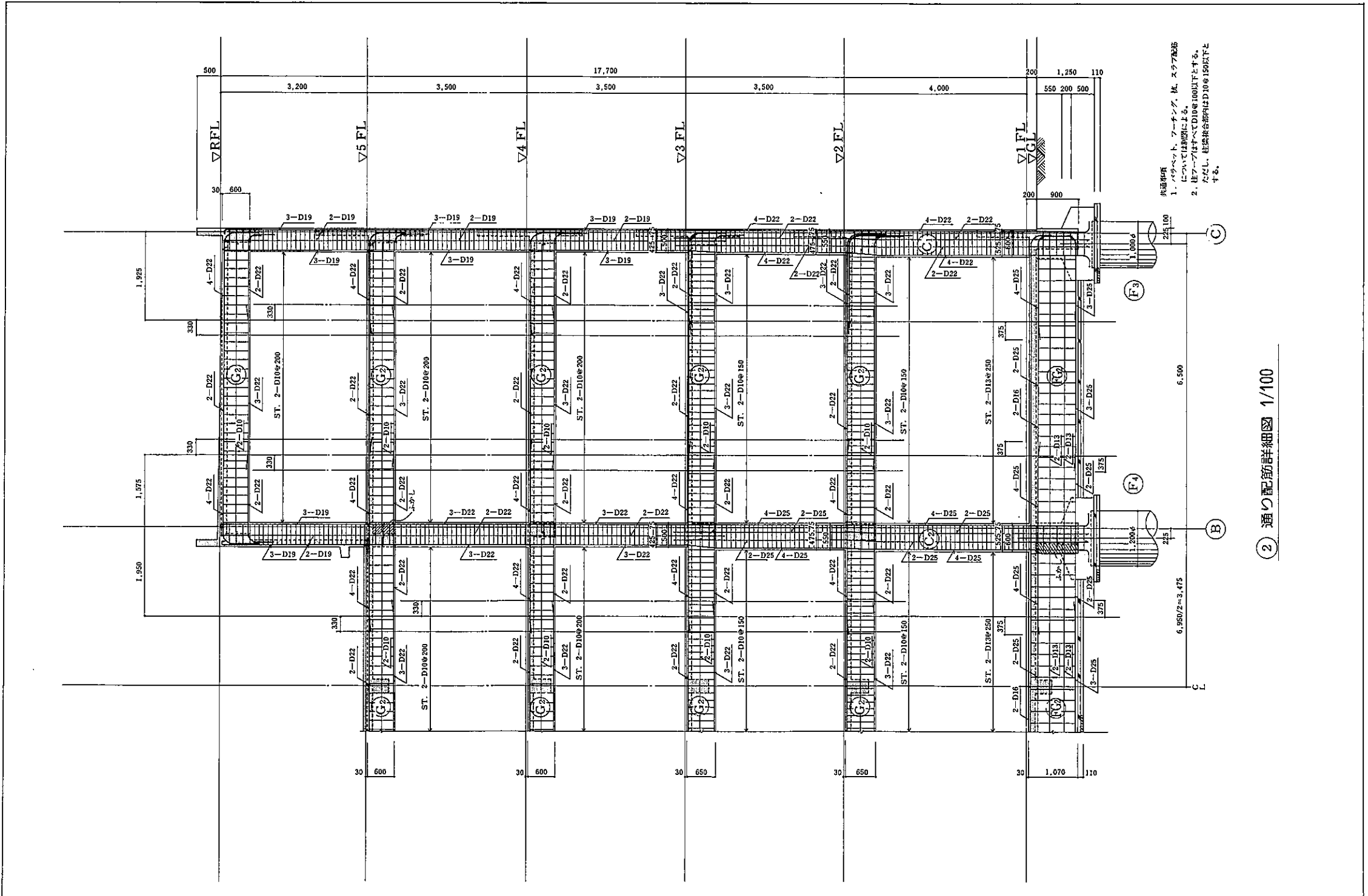
パラペット



受水槽室 1/100

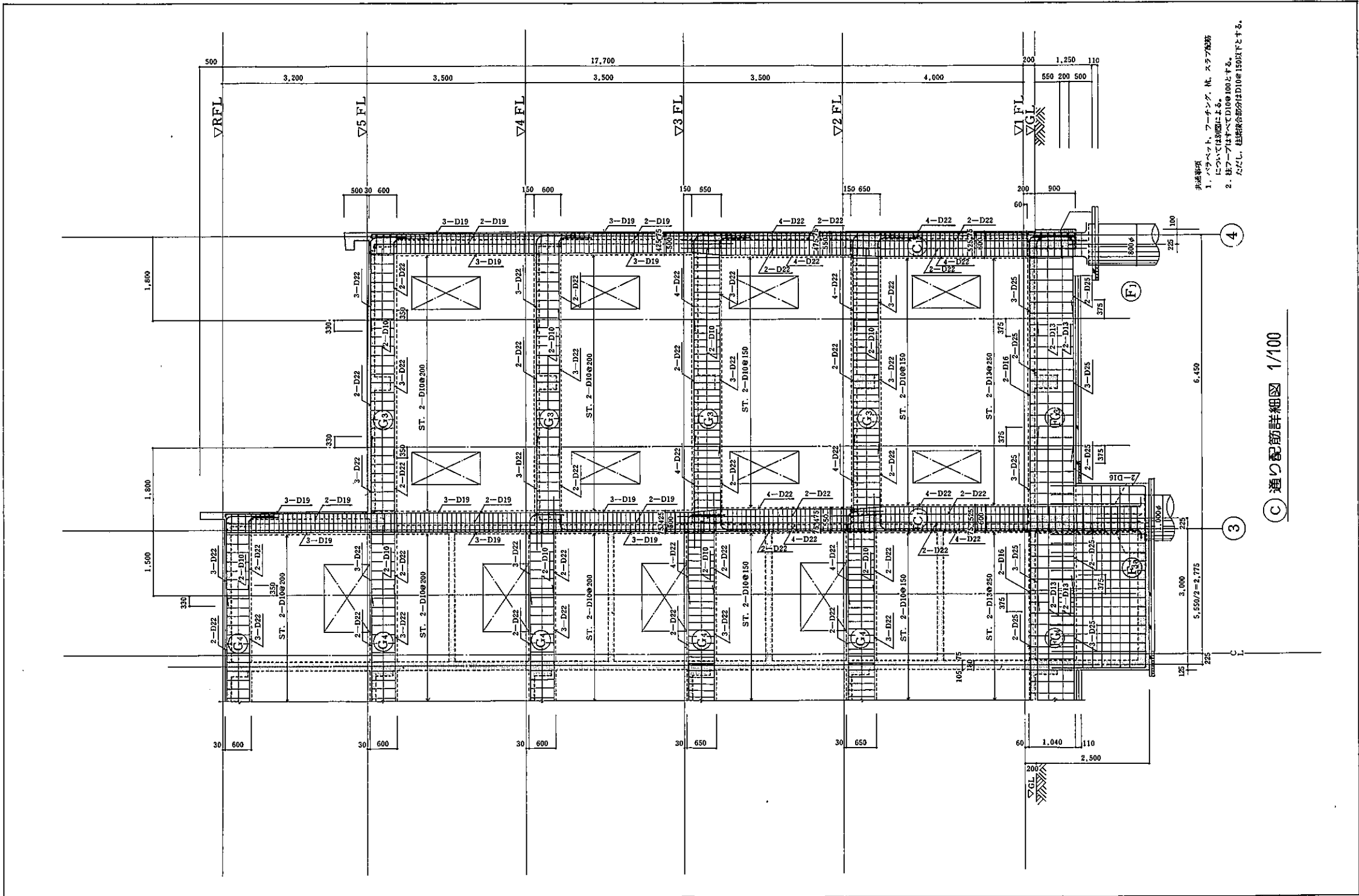


「実例で学ぶ建築積算」 SKビル新築工事設計 編者・建築積算研究会 発行・建設工業経営研究会 発売・大成出版社
© 1991 建設工業経営研究会 ※無断複製転載を禁ずる。



共通事項
 1. バラベット、フーチング、床、スタブ配筋については別図による。
 2. 柱フープはすべてD10φ100以下とする。ただし、柱接合部はD10φ150以下とする。

② 通り配筋詳細図 1/100



非注事項
 1. バラベト、ワーキング、柱、スタブ配筋
 については別図による。
 2. 柱ワーキングはすべてD10@100とする。
 ただし、柱継ぎ合部分はD10@150以下とする。

③ 通り配筋詳細図 1/100

『実例でまなす建築数量見積』 SKビル新築工事設計図 編者・建築積算研究会 発行・建設工業経営研究会 発売・大成出版社
 © 1991 建設工業経営研究会 ※無断複製転載を禁ずる。